

テーマ 「音楽科における言語活動の充実について」

1. テーマ設定の理由

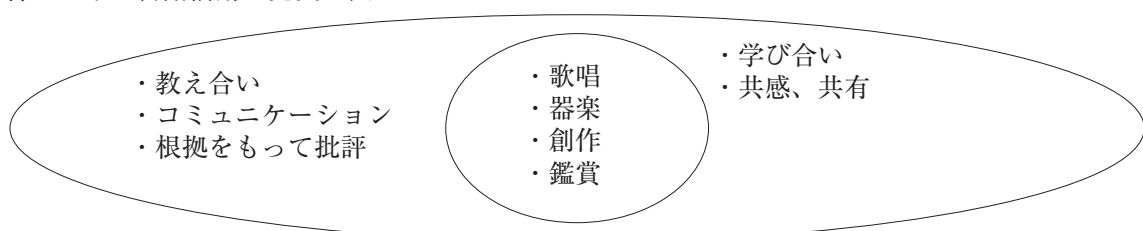
音楽の授業では、音楽活動の楽しさを体験し、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り多様な音楽のよさや美しさを味わうことが目標とされる。生涯に渡って音楽に親しむ態度を身につけ、その原動力を養うのが音楽科の指命と考える。そのためには、主体的に音楽に関わる態度を身につける必要がある。主体的に音楽に関わる態度を養うためには、生徒の知りたい学びたいという関心意欲態度を育てることが急務になってくる。そのためには毎授業のはじめにしっかりとしためあてを設定し、それを受けて自ら課題を設定しそれを解決しふり返るといったサイクルが必要になる。言語活動は、そのサイクルの中には絶対に必要不可欠な要素であると考え。人間は、すべて自分の気持ちや思いを整理していくときには、言語活動を行う。また、自分の思いや考えを他人に伝えるときもコミュニケーションという形で言語活動を行っている。よって音楽科においてもすべての学習の根源には言語活動があるので、そうした活動を取り入れた授業のあり方を音楽科として再考するために、このテーマを設定した。

2. 本年度の研究について

新しい学習指導要領の音楽科においても「第2 各学年の目標及び内容」の「B 鑑賞」の1学年（1）アにも、「音楽を形作っている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」と重視されている。また、「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」の2に「第2の内容の指導については、次の事項に配慮するものとする」として（7）アに「生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること」と示されている。このことは、音楽活動に対して個人的にどんな感想を思ったのかにとどまらず、クラスメイトがどのように感じたのか、自分たちの言葉で意見交換をすることから学習を広げ深めていくことが大切であり、求められていることである。このことから、授業をしていく上で教師が常に生徒同士で教え合ったり、意見を交わし合ったりする場面がある程度意図的に作っていく必要がある。最終的には、教師側が意図しなくても、生徒同士でそういった状況を自然に出来ていくのが目標ではあるが、最初の段階では常に教師側が意図的に場面を作っていくといかないといけない。

従来の授業では、教師主導で楽譜の解釈も教師が一方的に行い表現していることが多かったように思う。しかし、それでは生徒同士の学び合いや教え合いなどはあまり期待できない。最低限、楽譜の読み方、記号の読み方、意味などを教師から教えられる必要はあるが、表現方法は生徒同士で意見交換をしたりすることでより深まると思われる。例えば、歌唱の授業で一曲を表現するときに、楽譜にfの記号が書いていたとする。教科書には強くという意味が載っているので文字通りであれば大きく歌えばよいことになる。しかし、表現していく上ではただ単にボリュームを大きくするだけではおそらくもの足りないことになると思う。そこで、曲の雰囲気や前後の歌詞の意味から生徒同士で本校の場合では4人一組の班で、どのように表現したらよいかを意見交換しそれを、全体に発表するといった活動を行うことで自分たちで微妙な曲のニュアンスや表現方法をお互いに考えながらまた共有しながら表現を工夫することができる。そういった活動を中心に、生徒主導で授業を進めていくと自ずと言語活動がスムーズに行われていくと思う。

音楽科における言語活動の充実の図



上記の図のように、音楽的活動の根本に言語活動があるので音楽活動のすべての活動に教え合ったり、学び合ったり、共感し合い、共有し合う活動になるように意識して指導していく必要がある。今年度は、言語活動を通して子供たちが、いかに自分たちで楽しみながら自主的に音楽活動をしていくかを研究した。

3. 成果と課題

今年度、言語活動を取り入れた授業を通して、いくつかの点で検証してみた。

歌唱練習などをするときに、生徒同士で話し合ったり意見交換をすることで曲に対する表現方法が多方面で深まった。特に、自分たちで各パートに分かれてのパート練習などにおいては、めあてに基づいて自分たちで課題設定し、その課題に対してどのように解決していくかをしっかり話し合いながらコミュニケーションをとりながら活動できたように思う。その成果の表れとして、特に本校では12月に音楽会が開催されるが、音楽会に向けてのパート練習においても自分たちで目標をあらかじめ設定しその目標に向かって自分たちで話し合いながら練習できた。特に、自主的に練習を進めることができるので、より生徒同士の結束力、チームワークが高まった。

今後の課題としては、言語活動の充実ありきの音楽活動になったり、また逆に音楽活動ありきの言語活動になったりすると色々な意味で弊害も出てくるように思われる。よって、音楽活動を中心に言語活動が自然にあるような学習が理想であると考えるので、生徒同士のコミュニケーション力、教師と生徒とのコミュニケーション力をもっと高めながらよりよいものになるようにしていきたい。



① 題材 ～歌詞を創作しよう（歌のストーリーをもとに）～

② 題材について

音楽科における「言語活動の充実」とは、初めて聴く曲に対して教師が一方的に解説するのではなく、生徒の素朴な疑問や気づいたことを伝え合うことから興味を持つことが大前提になる。そこから、お互いにコミュニケーションをすることで、自分の思いや考え方を相手に伝えることが出来る。従来の音楽の授業では、一方的に教師から楽曲を教えられ、歌い方、演奏方法までも教師主導で伝達されることが多かった。つまり、教師が一方的に教師の表現力をもって、生徒という表現媒体を用いて教師の表現力を学ぶことが多かったように思う。今回の改訂で「言語活動の充実」というテーマが出てきたことで、さらに自主的に生徒同士でコミュニケーションを取り合い音楽を自分たちで考え、表現し創っていくことが重要なポイントと思われる。

今回の学習では、題材として「歌詞を創作しよう」を取り上げた。

ねらいは、ストーリー性のある歌を用いて歌詞を考えさせることで、生徒の音楽に対するイメージや歌に対する思いがより明確にさせることである。

まず、自分の思いや考えを歌詞にするに当たり楽曲を深く知ることは大事な事柄である。そのためには、最低限身につけなくてはならない合唱表現の技能や表現力は、発声練習、音取り練習なども含めて教え込む必要がある。そこから自分たちで、合唱曲や楽曲を創り上げていく力を養い、お互いで意見交換しながら表現力を高めていくことが出来るのである。そして、さらに今回の学習では、歌詞を創作していくことになる。創作した歌詞を、グループで意見交換させ実際にグループで歌ってみて共有するのである。最終的には、グループで創った歌詞を、全体の中で発表しクラス全体で共有していくのである。そういった中から、音楽科における言語活動が活発になると考える。

【教材について】

中学校の音楽1（教育芸術社）より混声二部合唱「パフ」

③ 学習活動と評価規準

学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・混声合唱の基礎的な響きを知る ・正しい発声法と正しい発音で歌う ・歌詞のイメージに合った歌い方を工夫する ・歌詞を創作するにあたり、場面をイメージする
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の要素（リズム・拍子・メロディー）と関わらせて歌詞を創作する
音楽への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> ①正しい発声法で進んで歌唱活動に取り組もうとしている ②歌詞にあった歌い方で積極的に工夫しようとしている ③仲間と一緒に音楽を楽しもうとしている ④積極的に音楽の歌詞を創作しようとしている
音楽的な感受や表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ①詞のイメージにあった歌唱法を工夫する ②ストーリーや曲想に合った歌詞の創作を工夫する
表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> ①曲の特徴を理解し、正しい音・発音・言葉・リズムで演奏するための技能を身につけている ②お互いを聴き合いながらよりよい表現を求めて演奏することができる ③ストーリーや曲想に合った歌詞を音楽の要素（リズム・拍子・メロディー）と関わらせて創作することができる

④ 学習計画 全4時間

学習課程	学習活動の中心	学習活動と言語活動との関わりについて	観 点
「パフ」音取り・歌唱練習 ②	音源から各パートで音取りをし混声合唱の練習	正しい発声と発音で、音取りが出来るように繰り返し練習をさせる。そのときに、必ず学習カードを使い課題を持たせ、確認しながら練習する。また、その成果をふり返る。《記録》	関感技
歌詞創作 ①	音楽の要素に関わりながらイメージに合った歌詞を創作（個人・グループ）	個人で、歌詞を創作する。その後、個人で創作した歌詞をグループ内で発表しお互いの歌詞を互いに批評し合う。グループで話し合いグループで一つ作品を創作する。《記録》《批評》	関感技
発表・ふり返り ①	発表し成果をふり返る	グループで創作した、歌詞を発表し自己・他グループの発表を聴いた講評を考えさせ、他グループに自分の意見を伝える。《批評》	関感

⑤ 本時の目標

- ・音楽の要素に関わりながらイメージに合った歌詞を創作しようとしている。
(関心・意欲・態度) (感受と表現の工夫) (表現の技能)
- ・積極的に活動に参加する。

⑥ 本時の展開 (3時間目)

学 習 内 容	教師の支援と留意点	評価・資料
○呼吸練習・発声練習	○活動の心構え、準備を意識させる。	観察
○前時の復習を兼ねて「パフ」を合唱する	○それぞれのパートの音が取れているかを確認しながら歌わせる。また正しい発声と発音で歌えているかも確認しながら歌わせる。	観察
○本時の学習内容について、めあてを確認し、本時の活動に入る		
・個人で活動	○曲想やストーリーを考慮して、歌詞創作ができるように机間指導しながら適切なアドバイスをしていく。	ワークシート 観察
・グループ(班)で活動 ・グループ(班)内発表	○個人で考えた歌詞を、グループ(班)で発表し合いグループ(班)の中で意見交換が活発に行われるように支援する。	自己評価 相互評価
○グループ(班)で話し合いグループ(班)で一つ作品を創作	○机間指導で適切なアドバイスをしていく。	ワークシート 観察

⑦ 結果と考察

音楽の授業で、言語活動を充実させていくためには常に教師がしっかりとしためあてをもって生徒に目標を考えさせ、活動をし最後にふり返るといったサイクルが必要になると思う。

時間数の削減の中少ない音楽の授業時数で子供たち一人一人が、自己能力感、自己達成感を得ながら表現力を高めていくかは、子供たち同士のコミュニケーション力にかかっていると考え。コミュニケーション力を高めるためには、子供たち同士の教え合い、学び合いをする場面を数多く設定する必要がある。特に歌唱においては、活動の中心はパートが中心になってくる。その中で、いかに自分たちで効率よく能率的に練習できるかは子供たち同士のコミュニケーション力にかかってくる。パートリーダーを中心にいかに、音楽記号なども使いながら上手に練習していくことが、向上するための早道であると考え。今回の取り組みでは、歌唱活動の上にさらに歌詞創作まで発展させた。歌詞創作をする上でもっとも必要になるのは、音楽要素（リズム、メロディー、拍子）なども考慮しながら場面や情景を想像し言語にしていける力である。まず、最初の段階での取り組みでは、個人で曲想や音楽要素、歌詞のストーリーをもとに考えさせた。普段から、学習カードを使って活動することから、文章を創ることに関しては子供たちも慣れており、また鑑賞教材などから曲想をイメージして文章を創っていくことにも抵抗なくできるのでわりとすらすらと書けていた。ただ、音楽の要素のリズムや拍子に合わせて作詞をする活動は今回の授業が初めての試みであり、イメージに合った歌詞を創ったもののリズムや拍子と合わないといった不都合が出てきた子供たちも見受けられた。しかし机間指導の中である程度は解決は出来た。次に、個人で考えた歌詞を4人一組の班で持ち寄りお互いで創った歌詞を発表し合った。このときの子供たちの様子を見てみると、やはり他の子供たちがどんなふうにして作詞をしたのか興味津々で本当に目を輝かせて真剣に発表し合っている様子が捉えられた。自分のイメージしている世界とは違う、世界を知ることによって子供たちのイメージしている世界が広がったのだと思う。そしてさらに、班で一つの作品をお互い話し合いながら創作していった。このとき子供たちは、お互いの意見を活発に交わしながら班で一つの作品を創作する楽しさ喜びを感じたのではないかと思われるくらい楽しんで活動できた。

単元の最後の時間に、班で創った歌詞を順番に発表して（発表方法は、朗読または実際に歌って）自分たちの学習の成果を検証し、批評し、十分に満足できる点、不十分である点を知り得た。

今回の授業での組み立て方には、言語活動と言うことでどうしても意見の交換や発表といったことに重点が置かれ、音楽的な活動と極端に分離してしまったことに反省する点も多くある。音楽的な活動があつての言語活動であると考え、メインはやはり音楽活動に重点を置く必要があると思われるのでバランスを取りながら言語活動を取り入れていく必要があるので今後改善をしていかねばならないと考える。

1年生 「パフ」 4番の歌詞を考えよう

* 「パフ」 4番目の歌詞を考えてみよう

少年ジャッキーは旅の途中、パフのこゝ思いうなはらむゆへ
 そして今のいりえにはジャッキーをまちわびて
 パフがさわぐ
 王様の考へ
 少年ジャッキーは旅の途中、パフのこゝ思ひ旅路をゆく
 そのころパフはジャッキーとあうための魔法考へてた

* 近くの人で、個人で考えた歌詞をそれぞれお互いに意見交換してみよう。



1年()組()番 名前()

混声二部合唱を楽しもう

パフ 大塚雅彦 日本童謡/P.ヤード・L.リフトン 作曲/藤岡謙雄 編曲

♩ = 72-80
 mp/c
 パフはりゆ えを ちがせじて ジャッ

そして ジャッキーと めざりあひ ぶ

を 探すため、海をわたる →

たりや良く 帰っていき たい

the magic dragon (魔法の竜)

第1楽章 魔法の竜

第2楽章

